

—誕生当時の思い出—

今回は北中誕生当時の先生方の思い出を記念誌から載せました。

「当時は運動場も塀もない、田圃の真ん中に鉄筋三階建ての北校舎があるだけの全く未完成の学校でした。そのため4月の始業式は浜田小学校の校庭を借りて行いました。それから、体育館、南校舎と順次建設されましたが、運動場になる土地の買収がうまくいかず、長い間水のたまったままの田圃で、体育の指導は学校の東にある公園を運動場の代わりにして行ってきました。

それから、やっと体育館が出来たと思ったら、フロアのあちこちが盛り上がり波打ってきました。フロアの下台板が十分乾燥していないものを使ったので、桜の板が膨張してきたのです。そのためフロア全体をめくって、やり直しするというお粗末な工事ミス。色々と建設途上に問題が多く、学校全体が完成したのは1年余り後だったと思います。」—後略—

初代教頭 大出 芳男先生

—前略—「浜田小学校の校庭を借用しダブルヘッダーで第一回の入学式をやっと行いました。翌日からは小学校を借用することは出来ませんので、とにかく学校に生徒を集めました。校地の整備や教室の施設も不十分ですので、校内外の整理や学活が多かったです。

前に書いたバラックの仮設校舎、夏は蒸し暑く、冬はすき間風で大変な寒さ、雨が降れば豆をいるような音楽が入り、入り口まで水びたしで傘をさして教室に行かねばならないような有様でした。一度台風が来たとき、トタン（現在の格技室の側面に張ってある赤茶色の材質）がまるで紙のようにめくられ、吹きちぎられたのにはびっくりしました。

運動場にも困りました。中央の部分が未買収で田圃のままです。サンケイ新聞「ちゅうがっこ」の特集の中に、生徒が「トラ刈り運動場」と名付けたと書いてありましたが、当を得た表現だったと思います。体育の時間は隣の市の苗木園の一部やお宮の境内を借用しましたが、行事やクラブ活動にはほとんど困りました。」—後略—

初代校長 安藤武夫先生

前回の7号と合わせてもう一度読んでみてください。一層当時の様子が忍ばれることと思います。新たな一ページを開くということは、何事においても、大きなエネルギーが必要になります。私は記念誌を読み返しながらそう感じました。

今回は、当時の生徒の様子を記した加藤森喬先生（北中の校歌を作詞をされた先生）の記事を載せて終わりとします。

—前略—「生徒も活気にあふれよく暴れていたが、勉強と遊び、暴れること、反省することのけじめが実によくついていた。何かを求めようとするたくましい活力を感じたものである」

